

# スポーツ系大学女性競技者における選手満足度が

## スポーツ・コミットメントに及ぼす影響

スポーツマネジメントゼミナール 1214096 武石望

### 1. 研究動機・研究目的

平成 28 年度の成人女性の週 1 回以上のスポーツ実施率は 41% (文部科学省, 2016) と女性のスポーツ参加率は男性に比べて低い現状である。スポーツ・コミットメントは「スポーツ参加を続ける願望と決心を表している心理上の概念」と定義される (Scanlan et al, 1993)。選手満足度に関しては、Riemer & Chelladurai (1998) が開発した Athlete Satisfaction Questionnaire (以下 ASQ) を基に様々な研究が行われているが、スポーツ・コミットメントに及ぼす影響を示した研究はなされていない。本研究は、大学競技者の選手満足度がスポーツ・コミットメントに及ぼす影響を明らかにし、性差の検証をすることで、女性競技者の特徴を明らかにすることを目的とした。本研究が女性競技者を取り巻く環境整備、指導やリーダーシップ、制度や支援などの在り方について検討する一助となり、女性のスポーツ参加の促進に貢献することを期待する。

### 2. 研究方法

本研究の調査は、スマートフォンもしくは PC を使用したオンライン上のアンケート調査を 2017 年 7 月 17 日～9 月 13 日の期間に実施した。調査対象者のスポーツ系大学生の体育会部活動で選手として活動している 303 名 (男性 154 名、女性 149 名) から有効な回答が得られた。調査項目は、個人属性、選手の全体満足、大学卒業後の運動継続意欲、Riemer & Chelladurai によって開発された ASQ の 15 因子 56 項目、平野 (2013) のスポーツコミットメント尺度の 6 因子 18 項目であった。

本研究の分析は、統計処理ソフト IBM SPSS Statistics Version 21 を用いた。分析は、まず ASQ とスポーツコミットメント尺度の信頼性を検証した。選手満足度、スポーツ・コミットメント、選手の全体満足、大学卒業後の運動継続意欲の関係について検討するため、相関分析と重回帰分析を行い、また性差の検証のため、t 検定を行った。

### 3. 主な結果と考察

選手の全体満足とスポーツ・コミットメントの関係を見た結果、「楽しさ」、「投資」、「機会」、「有能感」に正の相関が認められた。また、スポーツ・コミットメントから選手の全体満足への影響を検証した結果、「投資」と「有能感」から選手の全体満足に影響が認められ、選手の全体満足とスポーツ・コミットメントの間に関連があることが示唆された。

スポーツ・コミットメントと選手満足度の相関係数を算出した結果、80 個の相関のうち 60 個に正の相関が認められ、スポーツ・コミットメントと選手満足度の関係が明らかとなった。一方、選手の全体満足と運動継続意欲の間では、相関関係は見られなかった。

性差の検証を行った結果、女性競技者は大学卒業後の運動継続意欲が有意に低く、女性の

スポーツ実施率の向上のためには、大学卒業の転機でのスポーツ離れを食い止める必要があることが示唆された。

選手満足度の性差に関しては、女性競技者は男性競技者に比べ「医療人事」への満足が低いことを示した。女性競技者は「月経」や「女性アスリートの三主徴」など健康面の問題が起りやすいため、より身心のサポートを必要としており、医療サポートへの不足を感じていると考えられる。一方で「医療人事」に関する満足とスポーツ・コミットメント間で女性競技者に関連が認められなかったのは、医療人事によるサポートはスポーツ実施の環境の一つであり、競技へのコミットメントを高める直接的な要因ではないことが理由として考えられる。以上のことから、女性競技者のサポート環境を考えるにあたり身心面のサポート体制の充実を図っていく必要性が示された。

スポーツ・コミットメントの性差を検証した結果、男性競技者は「有能感」へのコミットメント因子が高いことを示した。さらに、スポーツ・コミットメントから選手の全体満足への影響を検証した結果、男性競技者のみ「有能感」から全体満足への影響が認められた。大学卒業後の運動継続意欲においても、男性競技者のみ「有能感」からの影響が認められ、女性競技者は「楽しさ」からの影響が認められた。この結果から、女性は楽しさが運動継続に影響しており、競技志向よりスポーツそのものを楽しみたい傾向が窺えた。男性は能力を伸ばし活かすことが選手満足度や運動継続意欲に影響し、女性は楽しさが運動継続意欲に影響するといった、性差を加味した指導の在り方を検討するための新しい知見となった。

#### 4. 結論

本研究では、スポーツ・コミットメントと選手満足度の関係と性差を明らかにした。女性競技者は大学卒業後の運動継続意欲が低く、女性のスポーツ実施率の向上のために、大学卒業時の転機でのスポーツ離れを食い止める必要性が示唆された。女性競技者を取り巻く環境や制度の整備、指導やリーダーシップなどの在り方について検討するため、スポーツ・コミットメントから大学卒業後の運動継続意欲への影響を調べた結果、女性競技者は「楽しさ」が運動継続意欲の起点となる重要な因子であることが明らかとなった。一方、男性競技者は「能力の活用」への満足が全体満足に影響していることや、「有能感」が選手の全体満足や大学卒業後の運動継続意欲に影響していることが明らかとなり、性差を加味した指導の在り方を検討するための新たな知見となった。また性差に関しては、女性の「医療人事」に関する満足度が有意に低いことや、「医療人事」とスポーツ・コミットメントとの関連が認められなかったことから、女性競技者の身心面のサポート体制を充実させていく必要性が示唆された。

#### 5. 卒業論文の執筆を終えて

女性スポーツの普及・発展に貢献したいと順天堂大学に入学し、部活動に勉強、寮生活や就職活動と一心不乱に突き進んできた4年間。その集大成として、本研究に着手しました。卒業論文を書き終えられたことに大きな達成感を感じています。本研究を進めるにあたり、終始ご指導ご鞭撻を頂きました指導教員の小笠原悦子教授、論文作成の際にご助言頂いた先輩方に大変感謝しております。また、アンケートに快く回答して下さった選手の皆様、4年間支えて下さった関係者の皆様、本当にありがとうございました。